

**2019 年度**

**冬季オリンピック・パラリンピック招致へ向けた市民対話事業**

**報 告 書**

**(本編)**

**令和2年2月**

**札幌市スポーツ局招致推進部**

## 目次

1	市民対話事業について .....	02
	(1) 目的 .....	02
	(2) 事業概要 .....	02
	(3) 参加者の募集 .....	03
2	子どもワークショップ .....	04
	(1) 開催概要 .....	04
	(2) ワークショップの結果概要 .....	06
3	大規模市民ワークショップ .....	07
	(1) 開催概要 .....	07
4	区民ミーティング .....	10
	(1) 開催概要 .....	10
5	大規模市民ワークショップと区民ミーティングの意見の傾向 .....	12
6	シンポジウム .....	16
	(1) 開催概要 .....	16

## 1. 市民対話事業について

### (1) 目的

札幌市では、冬季オリンピック・パラリンピックの招致に向け、招致の意義や大会計画、開催経費などをまとめた開催概要計画を策定することとしております。

開催概要計画の策定にあたっては、市民の共感を得られるものとするため、市民との対話を十分に行った上で、冬季オリンピック・パラリンピックを招致する意義や、大会の開催に対する期待や懸念などの市民意見を反映させていく必要があります。

本事業は、幅広い世代の市民から意見をいただき、今後の計画に反映させていくための検討材料とすることを目的として実施しました。

### (2) 事業概要

市民対話事業は、以下の目的、構成で開催しました。

#### ① 子どもワークショップ

2030年にこのまちの主役となる子どもたちに、冬季オリンピック・パラリンピックの理解を深めていただくことを目的として開催しました。

開催日時：令和元年9月1日（日）13時30分～16時30分

開催回数：1回

開催場所：大倉山ジャンプ競技場本部棟3階会議室  
札幌オリンピックミュージアム

参加者：札幌市内の小学校5年生・6年生31名

#### ② 大規模市民ワークショップ

冬季オリンピック・パラリンピック招致に向け、大会の開催に対する期待や懸念などの市民意見をいただくことを目的として開催しました。

開催日時：令和元年9月8日（日）・12日（木）13時～17時

開催回数：2回（2回とも同内容での実施）

開催場所：札幌プリンスホテル 国際館パミール

参加者：847名（8日：394名、12日：453名）

#### ③ 区民ミーティング

大規模市民ワークショップに参加できなかった市民も含め、各地区・各世代から広く意見をいただくことを目的として、10区全てで開催しました（10区とも同内容で実施）。

開催日時：令和元年9月17日（火）～10月7日（月）18時30分～20時30分

開催回数：10回（各区1回ずつ）

開催場所：各区民センターなど

参加者：10区合計324名

#### ④ シンポジウム

子どもワークショップ、大規模市民ワークショップ、区民ミーティングの様子や寄せられた意見などを紹介・共有することを目的として開催し、一連の市民対話で寄せられた意見の振り返りや、オリンピック、パラリンピアンなどをパネリストとしたパネルディスカッションを実施しました。

開催日時：令和元年10月11日（金）18時30分～20時30分

開催回数：1回

開催場所：道新ホール

参加者：556名

### (3) 参加者の募集

市民対話事業の周知や参加者の募集にあたっては、広報さっぽろ（2019年8月号）やSNS（札幌市公式ツイッター）などを活用したほか、各種イベント等でチラシ配布などを行いました。

これらのほか、各事業について以下のような周知・参加者募集を行いました。

#### 【子どもワークショップ】

- ・市内の小学校を通じた小学5、6年生へのチラシ配布
- ・児童会館へのチラシ配布

#### 【大規模市民ワークショップ、区民ミーティング】

- ・無作為に抽出した13歳以上の市民（各区600人、合計6,000人）に対し、参加者募集ハガキを送付

#### 【シンポジウム】

- ・新聞広告への掲載

## 2. 子どもワークショップ

### (1) 開催概要

開催日時	令和元年9月1日(日) 13時30分～16時30分
場所	大倉山ジャンプ競技場 本部棟3階会議室 札幌オリンピックミュージアム
参加者	札幌市内の小学生5年生・6年生(31人参加)
プログラム	① 開会 ② 冬季オリンピック・パラリンピッククイズ ③ 阿部雅司さんによる講話 ④ 札幌オリンピックミュージアムの見学 ⑤ ワークショップ ⑥ 閉会

#### ◆ 冬季オリンピック・パラリンピッククイズ

冬季オリンピック・パラリンピックに関心を持っていたため、冬季競技や1972年冬季オリンピック札幌大会によるまちの変化などをテーマとしたクイズに挑戦していただきました。



#### ◆ 阿部雅司さんによる講話

1994年冬季オリンピックリレハンメル大会のスキージャンプ複合団体金メダリストであり、札幌オリンピックミュージアムの名誉館長でもある阿部雅司さんから、スキーとの出会いやご自身の体験談、冬季オリンピックの素晴らしさや感動などを伝えていただきました。



#### ◆ 札幌オリンピックミュージアムの見学

1972年冬季オリンピック札幌大会のレガシーや、オリンピック競技・パラリンピック競技の歴史などについて、阿部雅司さんの案内のもと見学を行いました。

見学時間の後半では、冬季スポーツのアトラクション(シミュレーター)を通じて、冬季スポーツを体験していただきました。



## ◆ ワークショップ

「札幌市で冬季オリンピック・パラリンピックが開催されるとしたら、どんな大会にしたいか」をテーマにワークショップを実施しました。

各グループ（5、6人程度）で、11年後の2030年の自分を想像し、「自分はどんな立場で参加したいか」、「札幌のどんなところを世界に知ってもらいたいか」、「札幌がどんなまちになっていると良いか」といった視点で意見交換し、その結果をグループごとに発表していただきました。

会場には秋元市長も訪れ、子どもたちと意見交換を行いました。

[ワークショップの流れ]

- ① 自分の考えを整理
- ② グループでの意見交換
- ③ グループの意見をまとめる
- ④ 全体発表

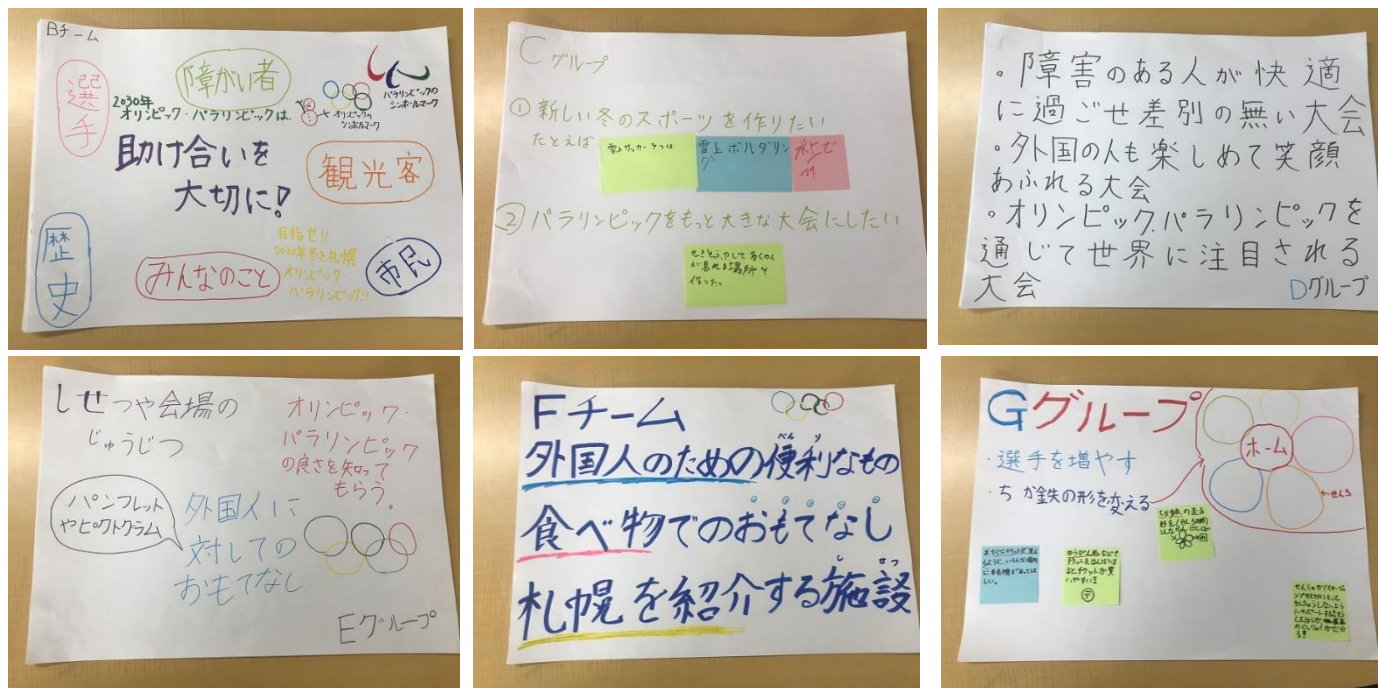


## (2) ワークショップの結果概要

項目	主な意見
どんな大会にしたいか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・札幌市が世界に注目されるような大会にしたい</li> <li>・おもてなし、助け合いを大切にしたい</li> <li>・人種や障がいの有無に関わらず誰もが楽しめるような大会にしたい</li> <li>・パラリンピックの良さや凄さをもっと知ってもらえる大会にしたい</li> </ul>
大会の開催に向けて必要なこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・札幌市の食べ物など、魅力を紹介できると良い</li> <li>・地下鉄のループ化など、会場に行きやすい工夫をしたら良い</li> <li>・雪上サッカーや雪上ボルダリングなど、新しい冬のスポーツをつくったら良い</li> <li>・日本のルールや日本語を知ってもらえる仕組みを整える</li> </ul>
2030年にはどんな札幌市だったらいいか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大会を通して色々な施設や会場が充実している</li> <li>・災害が来ても安心なまち</li> <li>・バリアフリーが充実している</li> </ul>

- 人種や障がいの有無に関わらず、誰もが楽しめるような大会にしたいといった意見や、そのためにはどのようなおもてなしができるかといったアイデアが非常に多く寄せられました。
- 大会の開催を契機に、札幌市の魅力や良いところを多くの人たちに知ってもらいたいという意見が多く見受けられました。

### ◆ 各グループの発表資料



※Aグループは他グループと併合したため、グループなし

### 3. 大規模市民ワークショップ

#### (1) 開催概要

開催日時	令和元年9月8日(日)、12日(木)の2日間 13時～17時 ※両日同内容、同時帯で実施
場所	札幌プリンスホテル 国際館パミール
参加者	札幌市にお住まいの方(中学生以上) 9月8日(日) 394人(43グループ) 9月12日(木) 453人(43グループ) 2日間合計 847人参加
プログラム	① 開会 ② 札幌市からの情報提供 ③ 子どもワークショップの紹介 ④ コーディネーター※からの説明 ⑤ ワークショップ ⑥ 当日の議論の確認(まとめ) ⑦ 閉会

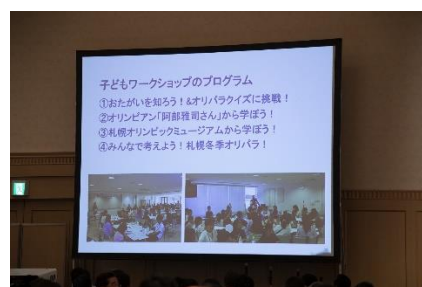
※ 株式会社KITABA 取締役会長 酒本 宏 さん

#### ◆ 札幌市からの情報提供、子どもワークショップの紹介、コーディネーターからの説明

札幌市から招致の意義や施設配置計画、財政計画などの計画概要について情報提供を行いました。

その後、令和元年9月1日(日)に実施した子どもワークショップの紹介や、ワークショップの進め方などについて、コーディネーターから説明を行いました。

※当日の資料は、「2019年度冬季オリンピック・パラリンピック招致へ向けた市民対話事業報告書(参考資料編)」でご覧いただけます。





## ◆ ワークショップ

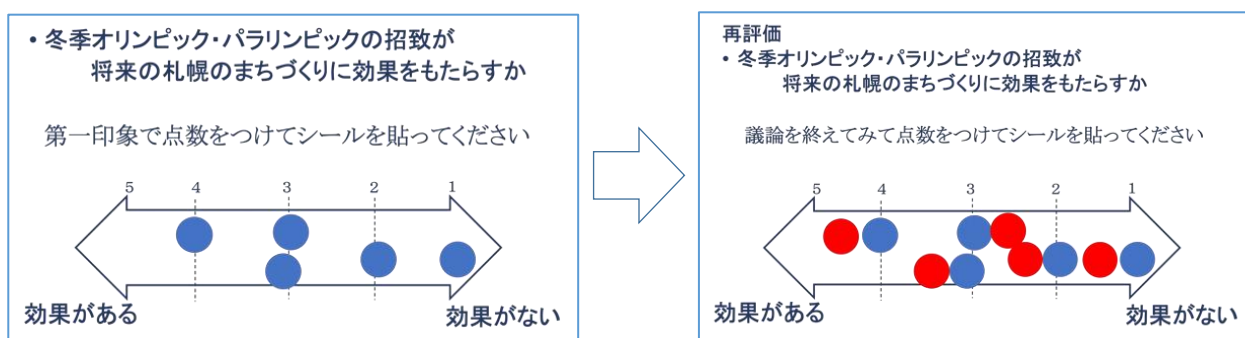
ワークショップは、以下の3つのテーマについて、各グループ（10人程度）で意見交換を行いました。また、会場には秋元市長も訪れ、市民のみなさまと意見交換を行いました（9月8日、12日の両日）。

### [テーマ1]

冬季オリンピック・パラリンピック招致は札幌のまちづくりに効果があるか

札幌市からの情報提供を受けて、ワークショップの冒頭に、冬季オリンピック・パラリンピックの招致が、札幌のまちづくりに効果があるかどうか、「第一印象」として5段階で評価していただきました。評価にあたっては、自己紹介も兼ねて、どのような理由で効果があると思うか、効果がないと思うかを一人一人発言していただきました。

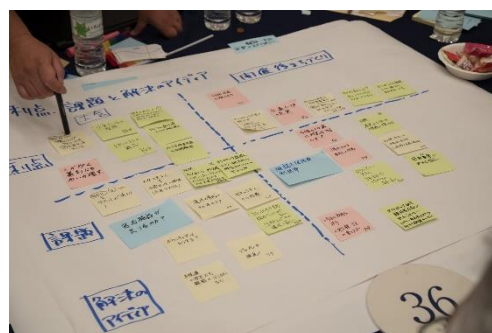
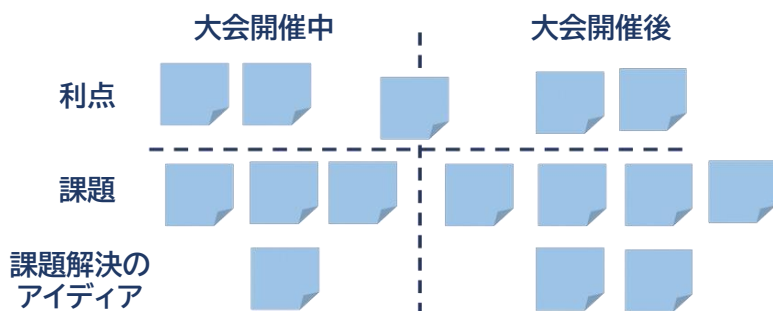
また、ワークショップの最後にも同様の評価を行っていただき、ワークショップの前後での印象の変化がわかるようにしました。



### [テーマ2]

冬季オリンピック・パラリンピック招致の利点と課題、課題解決のアイデア

冬季オリンピック・パラリンピック招致の利点と課題について、「大会開催中」と「大会開催後」に分けて意見をいただきました。また、課題については、解決のためのアイデアについても話し合っていました。



### [テーマ3]

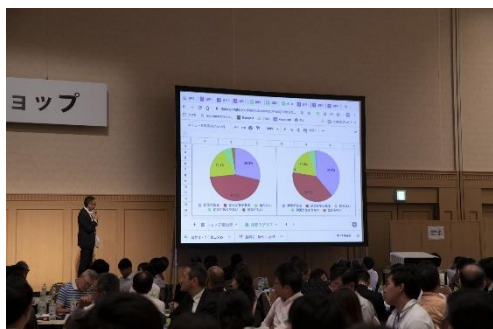
#### 2030年の札幌市のまちの姿（まちづくりのビジョン）

冬季オリンピック・パラリンピック招致に関わらず、札幌市が目指すべき2030年のまちの姿について自由な意見をいただきました。



#### ◆ 当日の議論の確認（まとめ）

ワークショップ終了後に、テーマ1～3の結果を振り返り、参加者全体で意見の傾向などを共有しました。



## 4. 区民ミーティング

### (1) 開催概要

開催日時	令和元年 9 月 17 日(火)～令和元年 10 月 7 日(月) 18 時半～20 時半 ※上記期間中に 10 区すべてで実施 いずれの区も同内容、同時間帯で実施
場所	各区の区民センターなど
参加者	各区民(中学生以上) 10 区合計 324 人参加
プログラム	① 開会 ② 札幌市からの情報提供 ③ 子どもワークショップ・ 大規模市民ワークショップの紹介 ④ コーディネーター※からの説明 ⑤ ワークショップ ⑥ 当日の議論の確認(まとめ) ⑦ 閉会

※ 株式会社 KITABA

### 【区民ミーティング開催状況詳細】

開催日	開催区	開催場所	参加人数
9 月 17 日(火)	北	北区民センター	36
9 月 19 日(木)	中央	中央区民センター	25
9 月 25 日(水)	東	東区民センター	20
9 月 26 日(木)	白石	白石区民センター	48
9 月 30 日(月)	手稲	手稲区民センター	39
10 月 2 日(水)	清田	清田区役所	22
	厚別	厚別区役所	21
10 月 4 日(金)	西	西区民センター	43
10 月 7 日(月)	豊平	月寒公民館	39
	南	南区民センター	31
合計			324

### ◆ 札幌市からの情報提供、子どもワークショップ・大規模市民ワークショップの紹介、コーディネーターからの説明

大規模市民ワークショップと同様、札幌市から招致の意義や施設配置計画、財政計画などの計画概要について情報提供を行いました。

その後、令和元年9月1日（日）に実施した子どもワークショップ、9月8日（日）、12日（木）に実施した大規模市民ワークショップの紹介や、ワークショップの進め方などについて、コーディネーターから説明を行いました。

※当日の資料は、大規模市民ワークショップと同様です。

### ◆ ワークショップ

大規模市民ワークショップと同様の3つのテーマについて、各グループ（4人～6人程度）で意見交換を行いました。また、区民ミーティングの初回となる北区民ミーティングには、秋元市長も参加し、意見交換を行いました。



### ◆ 当日の議論の確認（まとめ）

大規模市民ワークショップと同様、テーマ1～3の結果を振り返り、参加者全体で意見の傾向などを共有しました。

## 5. 大規模市民ワークショップと区民ミーティングの意見の傾向

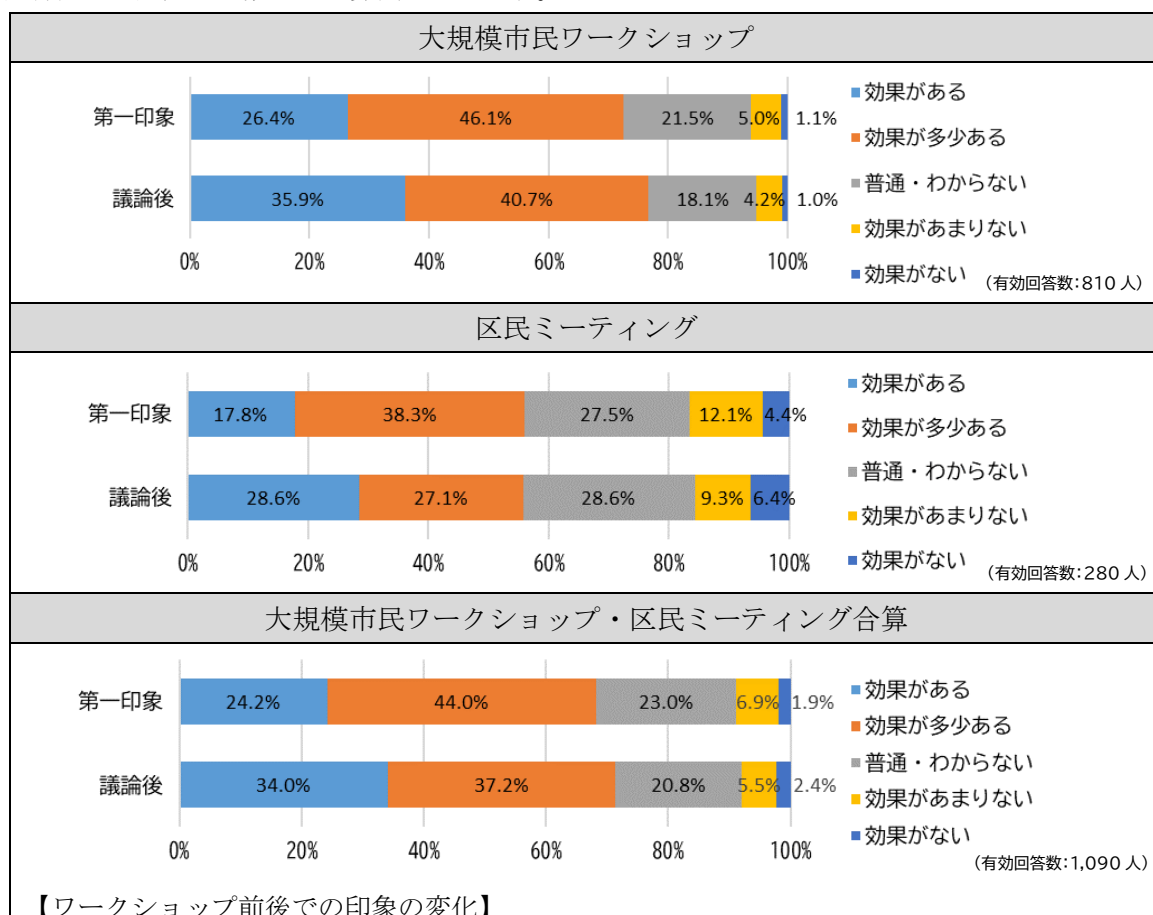
大規模市民ワークショップと区民ミーティングでは、同じテーマでワークショップを行いました。それぞれのワークショップでの意見の傾向と、両ワークショップを合算した意見の傾向とは以下のとおりでした。

[テーマ1]

冬季オリンピック・パラリンピック招致は札幌のまちづくりに効果があるか

▶以下の棒グラフは、ワークショップの前後で、2030年冬季オリンピック・パラリンピック招致が札幌市のまちづくりに効果があるかどうかを5段階で評価していただいた結果をパーセンテージで表記したものです。

▶大規模市民ワークショップでの有効回答数(2日間合計810人)、区民ミーティングでの有効回答数(10区合計280人)を母数として算出しています。



### 【ワークショップ前後での印象の変化】

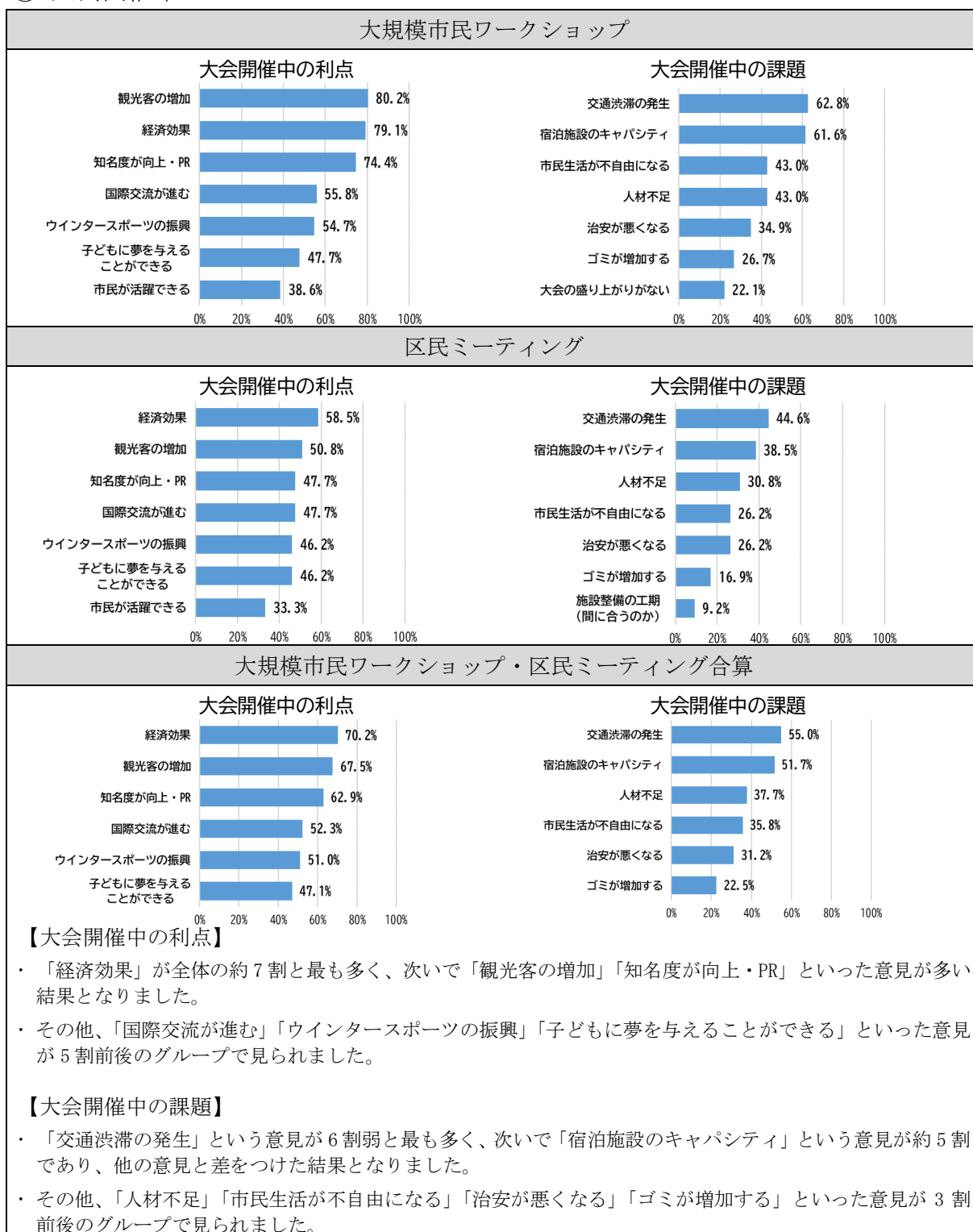
- ・「効果が多少ある」と回答した市民が6.8ポイント減少し、「効果がある」と回答した市民が9.8ポイント増加しました。
- ・「効果があまりない」と回答した市民が1.4ポイント減少し、「効果がない」と回答した市民が0.5ポイント増加しました。
- ・「普通・わからない」と回答した市民が2.2ポイント減少しました。

[テーマ2]

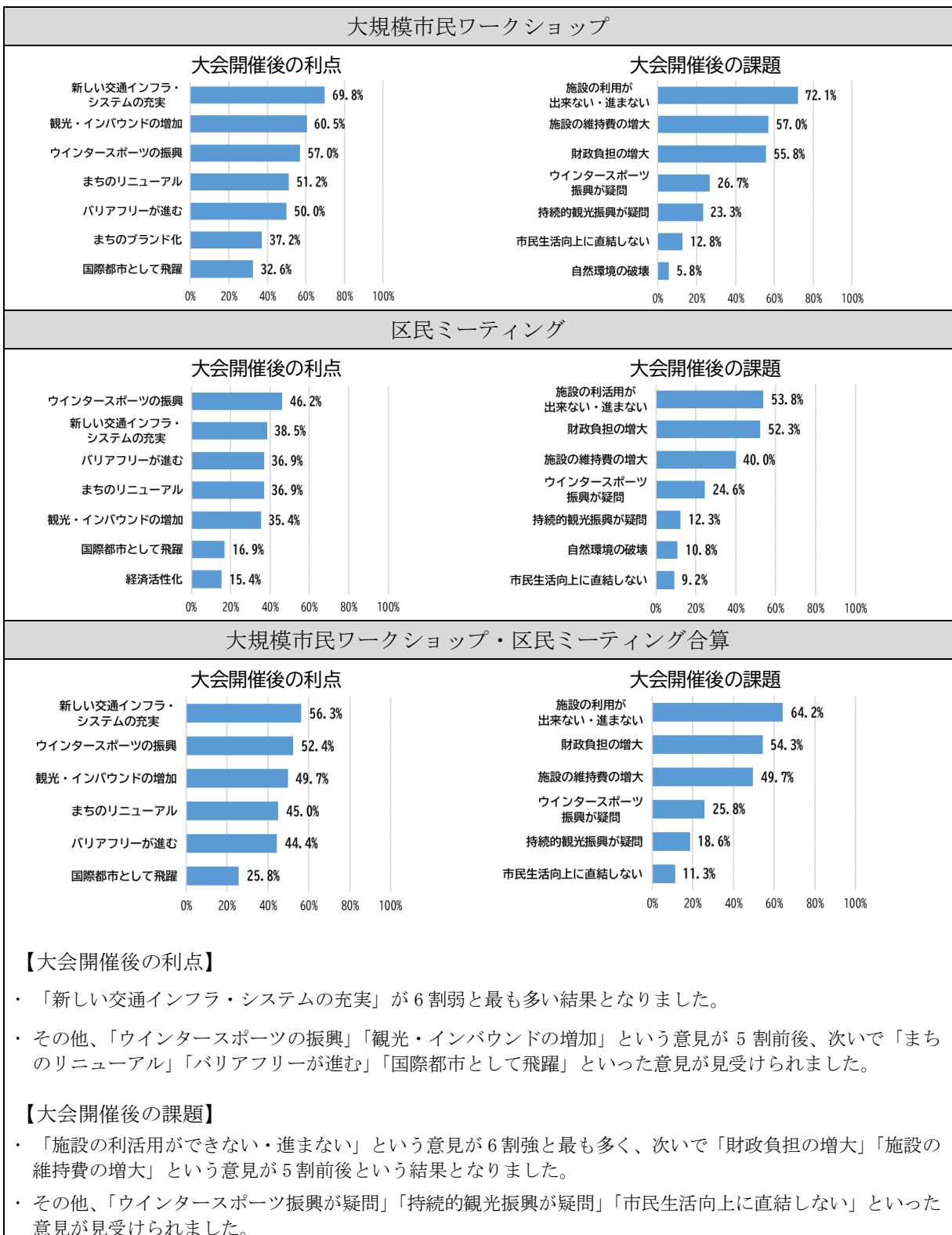
冬季オリンピック・パラリンピック招致の利点と課題、課題解決のアイディア

▶以下の棒グラフは、大規模市民ワークショップ（2日間合計86グループ）、区民ミーティング（10区合計65グループ）での総グループ数（151グループ）のうち、何テーブルで意見が出されたかをパーセンテージ表記したものです（複数回答可）。

① 大会開催中



## ② 大会開催後



[テーマ3]

2030年の札幌市のまちの姿（まちづくりのビジョン）

▶冬季オリンピック・パラリンピックの開催に関わらず、2030年の札幌市のまちの姿（まちづくりのビジョン）についての意見をいただきました。主な項目と意見は以下のとおりです。

- ① 経済的に発展しているまち  
札幌に企業があり東京に行かなくても就職できるまち
- ② 交通利便性が高いまち  
冬でも移動しやすいまち、自動運転の車が走るまち
- ③ 高齢者に優しいまち、バリアフリーのまち、福祉の充実したまち  
高齢者や障がい者が住みやすいまち、バリアフリーが進んでいるまち
- ④ 魅力と賑わいのあるまち  
若者が多い活気のあるまち、世界に対して誇れるまち、子どもが楽しく暮らせるまち
- ⑤ 災害に強いまち  
電線電柱の地中化などによって災害に強いまち
- ⑥ 国際都市  
文化交流が盛んなまち、外国人が暮らしやすいまち
- ⑦ ウィンタースポーツが盛んなまち  
ウィンタースポーツ施設が充実しているまち、手軽にウィンタースポーツを楽しめるまち
- ⑧ 冬に強いまち、除雪の充実したまち  
冬でも快適に歩けるまち、自動運転の除雪車などもあり除雪体制が充実したまち
- ⑨ コミュニティのあるまち  
町内会が充実しているまち、助け合うコミュニティがあるまち、市民参加が盛んなまち
- ⑩ 環境に優しいまち  
サステイナブルコンパクトシティ、自然エネルギーを導入しているまち



## 6. シンポジウム

### (1) 開催概要

開催日時	令和元年10月11日(金) 18時半～20時半
場所	道新ホール
参加者	556人参加
プログラム	① 開会 ② 市民対話事業の振り返り ③ パネルディスカッション ④ ミニライブ※ ⑤ 閉会

※2019年2月から「さっぽろ応援大使」を務めている半崎美子さん、「虹と雪のバラード」アレンジコンテストグランプリ受賞者である「ぱれっと×岩佐亜由美」によるミニライブを行いました。

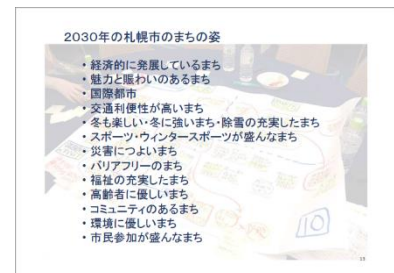
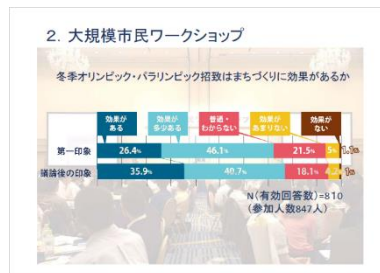
### ◆ 市民対話事業の振り返り

秋元市長と、市民対話事業全体のコーディネーター（株式会社KITABA 取締役会長 酒本 宏 さん）との対談形式で、子どもワークショップ、大規模市民ワークショップ、区民ミーティングについて動画などを交えながら振り返りました。

動画では、市民のみなさまに語っていただいた2030年の札幌のまちの姿がどのようになっているかという「夢」をイラスト化した「みんなの絵」も発表しました。

対談では、秋元市長から、冬季オリンピック・パラリンピックの開催を通じた市民生活の向上に対する期待や思いについて「2030年の札幌の姿（イメージ）」のイラストを交えながら紹介がありました。

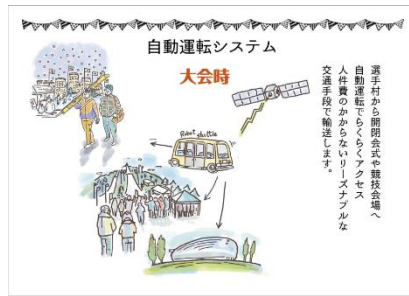
### 【市民対話事業の振り返り資料（抜粋）】



### 【「みんなの絵」の紹介】



【札幌市長が考える「2030年の札幌の姿（イメージ）」の紹介】



◆ パネルディスカッション

「札幌らしい冬季オリンピック・パラリンピック」や「レガシーを残すことができる冬季オリンピック・パラリンピックのあり方」などについてパネルディスカッションを実施しました。

【パネリスト】

- ・小塚 崇彦さん (オリンピック/フィギュアスケート)  
2010年バンクーバーオリンピック 8位入賞
- ・永瀬 充さん (パラリンピアン/パラアイスホッケー※)  
2010年バンクーバーパラリンピック 銀メダル  
※当時は「アイススレッジホッケー」
- ・高野 伸栄さん (北海道大学教授 公共政策学分野)
- ・秋元 克広 (札幌市長)

【コーディネーター】

- ・酒本 宏さん (株式会社KITABA 取締役会長)

## ◆ パネルディスカッションでの主な発言内容

### ○ 小塚 崇彦さん

「名古屋出身の自分は雪に親しむ暮らしを知りませんでした。札幌市民にはそれがあります。この違いは大きいです。オリンピックのマークは6色で表現されておりこの色によってほぼすべての国の国旗を描くことができます。オリンピックは世界が共にあること、共生社会を実感する大切なイベント。オリンピックとして自分が感じたことをぜひ札幌の皆さんにも共有してほしいです。」

### ○ 永瀬 充さん

「私は高校生時代、部活でバスケットボールをしていましたが原因不明の難病で競技ができなくなってしまい絶望しました。しかし、19歳の自分を救ってくれたのがパラリンピックでした。誰もが障がい者となる可能性があります。そう考えたら、車いすでどうやって生活していくのか、実はパラアスリートからいろんなことを学べるのです。そんなことをパラリンピックは教えてくれるのではないのでしょうか。」

「アクセシビリティは全ての人に対する色んな選択の保証であると考えています。例えば車いすの方にとってはバリアフリー化はアクセシビリティの一つですし、外国人の方に配慮して日本語以外で案内をするというのもその一つです。障がい者だけではなく、年齢や性別、国籍、言葉など様々な違いを超えて誰もが暮らしやすい社会にしていけるのです。それがパラリンピックの持つ力ではないかと思います。」

### ○ 高野 伸栄さん

「市民対話で懸念として多く挙げた交通渋滞については、道路計画の見直しといったハード面だけではなく、当事者の皆さんに意識や行動を少しでも変えていただくという、ソフトの面の対策ということも重要であると認識しています。そしてもう一つ大切なのは“ハート”面です。オリンピック・パラリンピックは、様々な課題を乗り越えていくためのハートを高めていく機会にもなると思います。」

### ○ 秋元市長

「オリンピック・パラリンピックは単なる一過性のイベントではありません。まもなく人口減少・超高齢社会を迎えようとしている今、ハード面も、ソフト面も含めて社会の仕組みを変えていくきっかけとなります。皆さんと気持ちを一つにし、オール札幌、オール北海道で一緒に取り組んでいきます。この札幌のまちを、次の子どもたちの時代につなげていくために、50年先、100年先の札幌をどうしていくのかということ、これからも皆さんとともに考えていきます。」